

令和2年度学力向上研究指定校事業第2回連絡協議会・報告資料

令和2年度を取組の概要

学 校 名	大和町立鶴巣小学校	主な取組教科	算数科
研 究 主 題	確かな学力を身に付けた児童の育成 ～既習事項をもとに問題解決の見通しをもたせ、共に学び合わせる算数科の授業づくりを通して～		研究年次 3 / 3年次

1 今年度の主な学力向上の取組と成果

学力向上の取組	成 果	評価の根拠
ノートや教科書にインデックスを付けさせ、既習事項を活用して課題解決に向かわせる。	課題を読み取り、インデックスを基に既習事項を活用し問題解決する児童が増えた。	児童の算数の学習に関する意識調査(12月)では、「算数の授業で学習したことを使って問題をといていますか」に、「といている」という回答した児童が90%→97%と昨年度を上回った。
ノートの書かせ方・形式を統一し、既習事項の手がかりとなるノートを作らせる。	よいノートを展示するなどしたこともあり、より見やすく、分かりやすいノートの共通イメージをもたせることができた。ノートが課題解決の手がかりとなることを実感させることができた。	授業中には、ほとんどの児童が進んで自分のノートを振り返って問題解決に向かう姿が見られるようになった。同上の調査で、「自分の考えをノートに書くことができる」と答えた児童が84%→90%と増加した。
基礎的・基本的な知識・技能の習得を目指した「ステップタイム」、活用の力を育てることを目的とした「チャレンジタイム」を実施する。	朝15分間の短い時間に計算問題を解くことで、集中して計算練習をすることができ、計算することに自信が付いてきている。	児童の意識調査(12月)から、98%の児童が「算数の勉強は大切」と感じていることが分かった。
「家庭学習」の習慣化を図る。	家庭学習をする習慣が身に付いてきている児童が多い。既習問題の習熟が図られ、新たな課題に取り組む意欲も持てるようになってきている。	家庭学習の時間については、児童の意識調査(12月)では、家で学年×10分+10分以上の学習をしていると答えた児童は80%「家で進んで学習している」と回答した保護者は年々増加している。(73%→75%)

2 残された課題・要因と今後の方向性

課題・要因	今後の方向性
<ul style="list-style-type: none"> ・自力解決や小グループでは、自分の考えを表現する姿が見られるようになったが、自信を持って「伝えることができる」と言える児童が少ない。 ・基礎的・基本的な学習の継続とマンネリ化。 	<ul style="list-style-type: none"> ・考えを交流させる、活動形態や集団設定を工夫し、活動を意図的に設定し慣れさせていくと共に、達成感を味わわせる工夫をする。また、自分の考えを伝えるだけでなく、相手が話したことを聞く力の育成を図る。 ・児童の実態に合った家庭学習の内容や、朝の時間の使い方をさらに検討していく。